

教師の成長に関するアンケート調査 結果概要



愛知教育大学・大学院を卒業・修了した教師は、
養成教育期をどのように振り返るのか？
教師としての力量をどのように形成しているのか？

「教師の成長に関するアンケート」調査概要

- **調査テーマ** 愛知教育大学を卒業・修了した教師の力量形成・自己形成に関する意識・実態
- **調査目的** 本学における経験や学びが教師としての力量形成・自己形成にどのように影響しているのか、その関係を分析し、本学学部および大学院におけるカリキュラム改善等の基礎的データとして活用すること。
- **調査方法** 郵送調査法
- **対象** 2006年度から2011年度に本学を卒業・修了し、日本国内の小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校での教職経験のある2,268名に実施した。
- **調査時期** 2013年3月12日～4月8日
- **調査項目** 大学進学先決定動機／本学大学院進学先決定動機／学部時代に影響を受けたこと／大学院時代に影響を受けたこと／卒業論文の内容／修士論文の内容／在学時の学びと教育実践とのつながり／教育実践において必要性を感じること／学部卒業時・大学院修了時・現在の自己評価／授業以外の仕事の内容／教育実践の質を高める促進要因・阻害要因／教職生活における課題・困難及びその対応／教員養成制度の高度化についての意見

※本調査は、文部科学省特別経費「教員養成キャリアと教員の資質能力との関係に関する調査研究」プロジェクトの一環として、生嶋亜樹子（愛知教育大学講師）がアンケート調査票を作成し本プロジェクトメンバーによる検討を経て実施した。

内容

回答者の基本属性

- 1 大学進学先決定の動機
- 2 学部の学びをとおして影響を受けたこと
- 3 大学院進学先決定の動機
- 4 大学院の学びをとおして影響を受けたこと
- 5 学生生活をとおして影響を受けたこと
- 6 在学時の学びと教育実践とのつながり
- 7 教師としての力量形成を促進するもの
- 8 教師としての力量形成を阻害するもの
- 9 教職生活における課題・困難
- 10 教職生活における課題・困難への対応策
- 11 現在の自分に身についていること
- 12 教員養成制度の改革について
- 13 自由記述より

回答者の基本属性

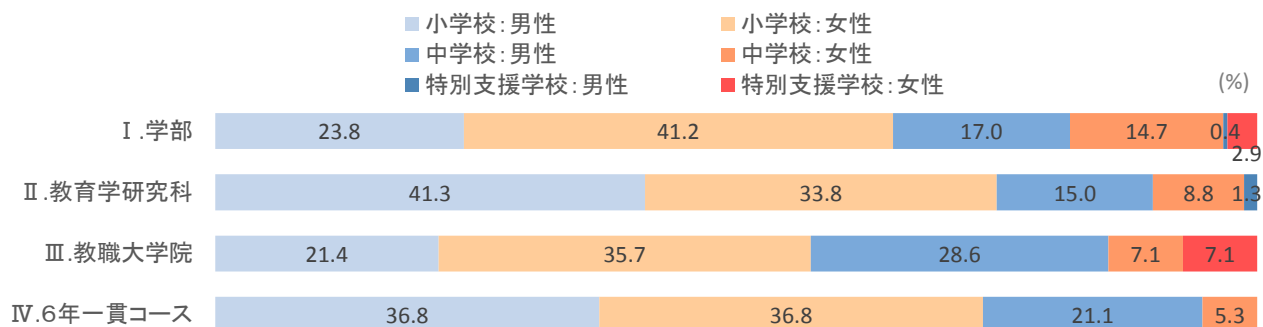
教員養成キャリアを4類型に区分し 類型ごとの力量形成過程の特質をとらえる

本調査では、有効回答者916人を4つの教員養成キャリアの類型に分けて集計している。類型ごとの教員養成キャリアの差異に着目し、各類型の教師としての力量形成・自己形成の特質を分析するためである。

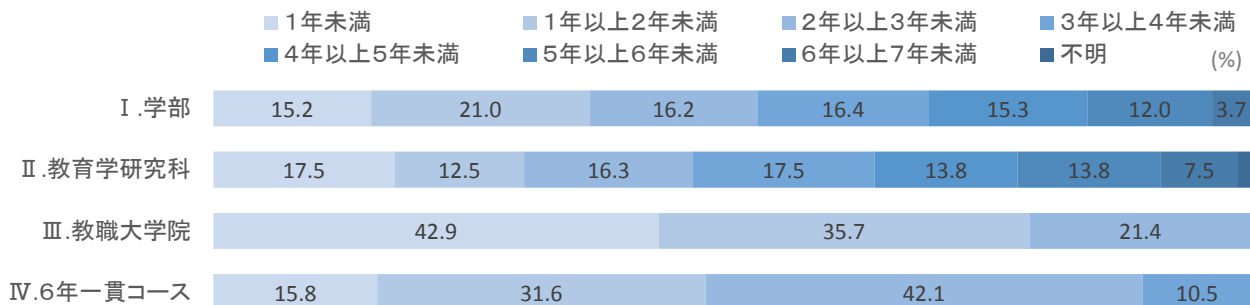
なお、「Ⅱ.教育学研究科」および「Ⅲ.教職大学院」は、他大学出身者も含まれる。前者については30.0%、後者については64.3%が他大学出身者である。

4類型		有効回答者数
Ⅰ.学部	本学教育学部を卒業した教師	803人
Ⅱ.教育学研究科	本学教育学研究科を修了した教師	80人
Ⅲ.教職大学院	本学教育実践研究科(教職大学院)を修了した教師	14人
Ⅳ.6年一貫コース	6年一貫教員養成コースに所属し、 本学教育学研究科を修了した教師	19人

勤務校構成比



教職経験年数構成比



本調査結果で使用している百分比(%)は、有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数点第2位以下を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。とくに注記がない場合は上記有効回答数を母数として算出している(「不明」の百分比は表記していない)。
なお、各図表内の()の値は実数を表す。

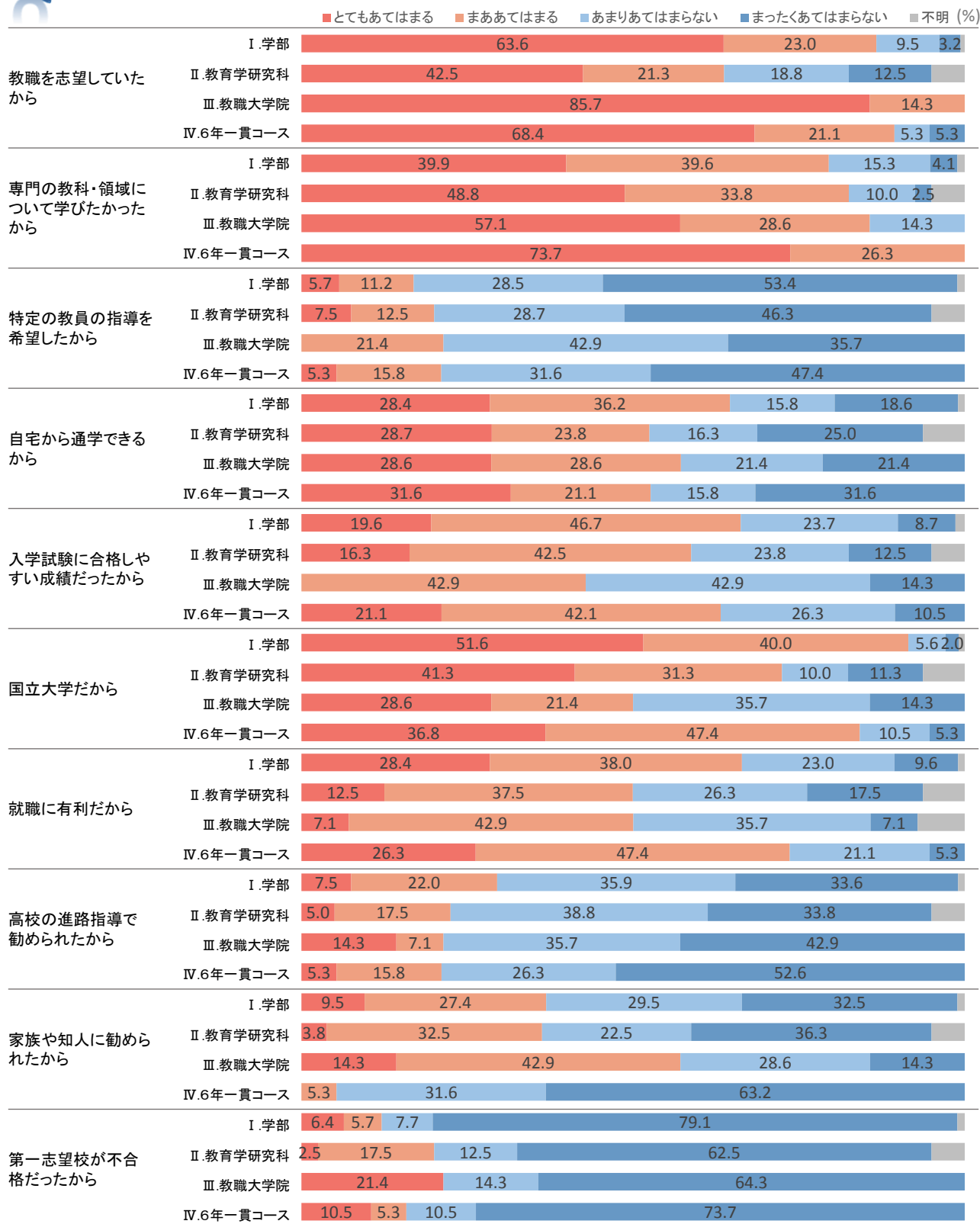
1 大学進学先決定の動機

「教職志望だから」「専門の教科・領域を学びたいから」「国立大学だから」

類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳは、「教職志望だから」「専門の教科・領域を学びたいから」「国立大学だから」の3項目において肯定的回答(「とてもあてはまる」+「まああてはまる」)の割合が多い。類型Ⅲは、「教職志望だから」「専門の教科・領域を学びたいから」の2項目が他類型と同様に多い。



大学(学部)進学時に、あなたが進学先を決定した動機はどのようなことですか。



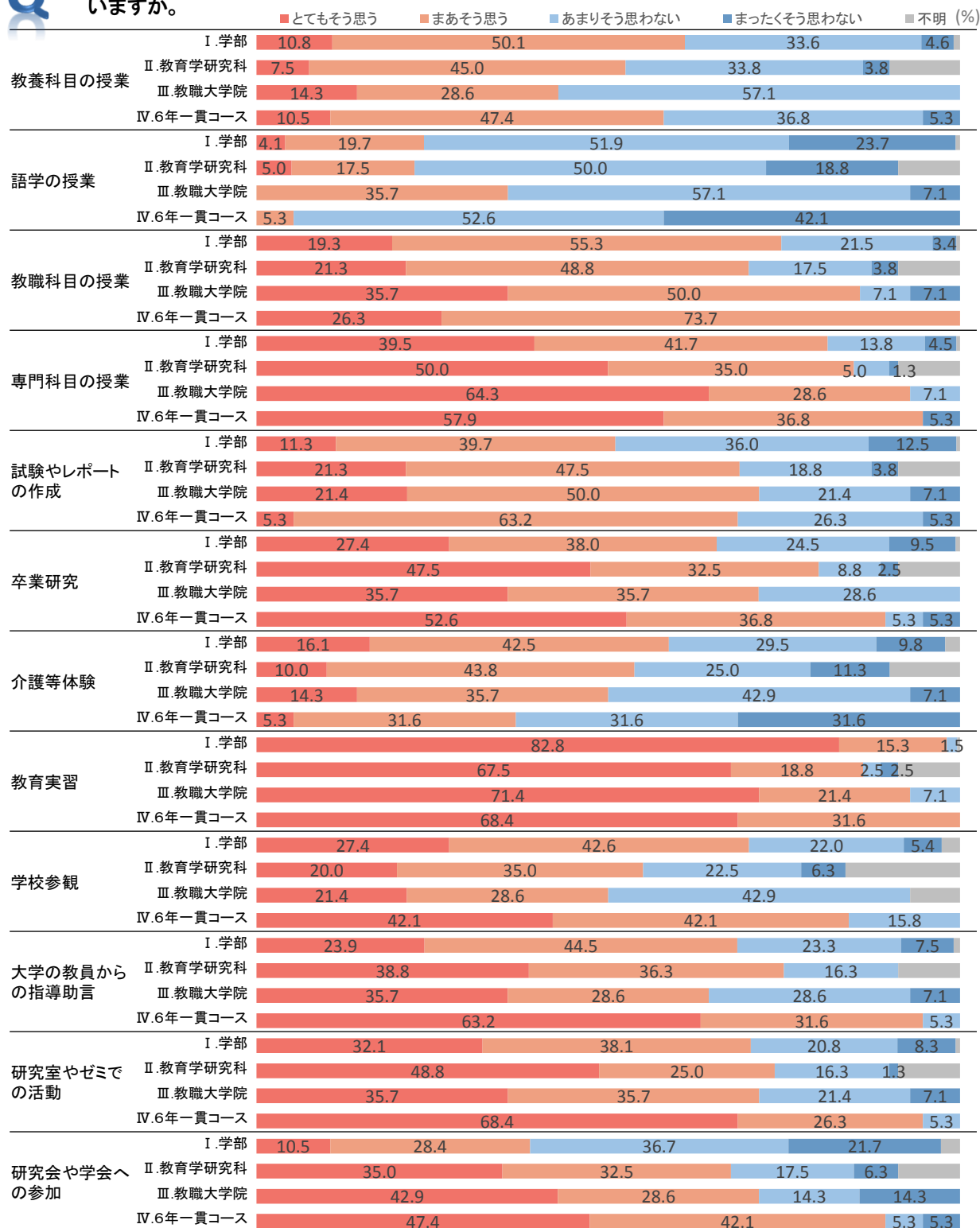
2 学部の学びをとおりて影響を受けたこと

「教育実習」が自己形成に影響大

肯定的回答の割合は、類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳでは「教育実習」が最も多い。次いで、類型Ⅰでは「専門科目の授業」、類型Ⅱでは「専門科目の授業」「卒業研究」となり、8割を超えている。類型Ⅳでは、「教職科目の授業」「教員の指導」「研究室の活動」「専門科目の授業」「研究会への参加」「卒業論文」「学校参観」の8項目で8割を超える。類型Ⅲでは、「専門科目の授業」が最も多く、「教育実習」「教職科目の授業」と続く。



学部時代に経験した以下のことから、現在のご自身を形成するうえで、あなたに影響を与えたと思いますか。



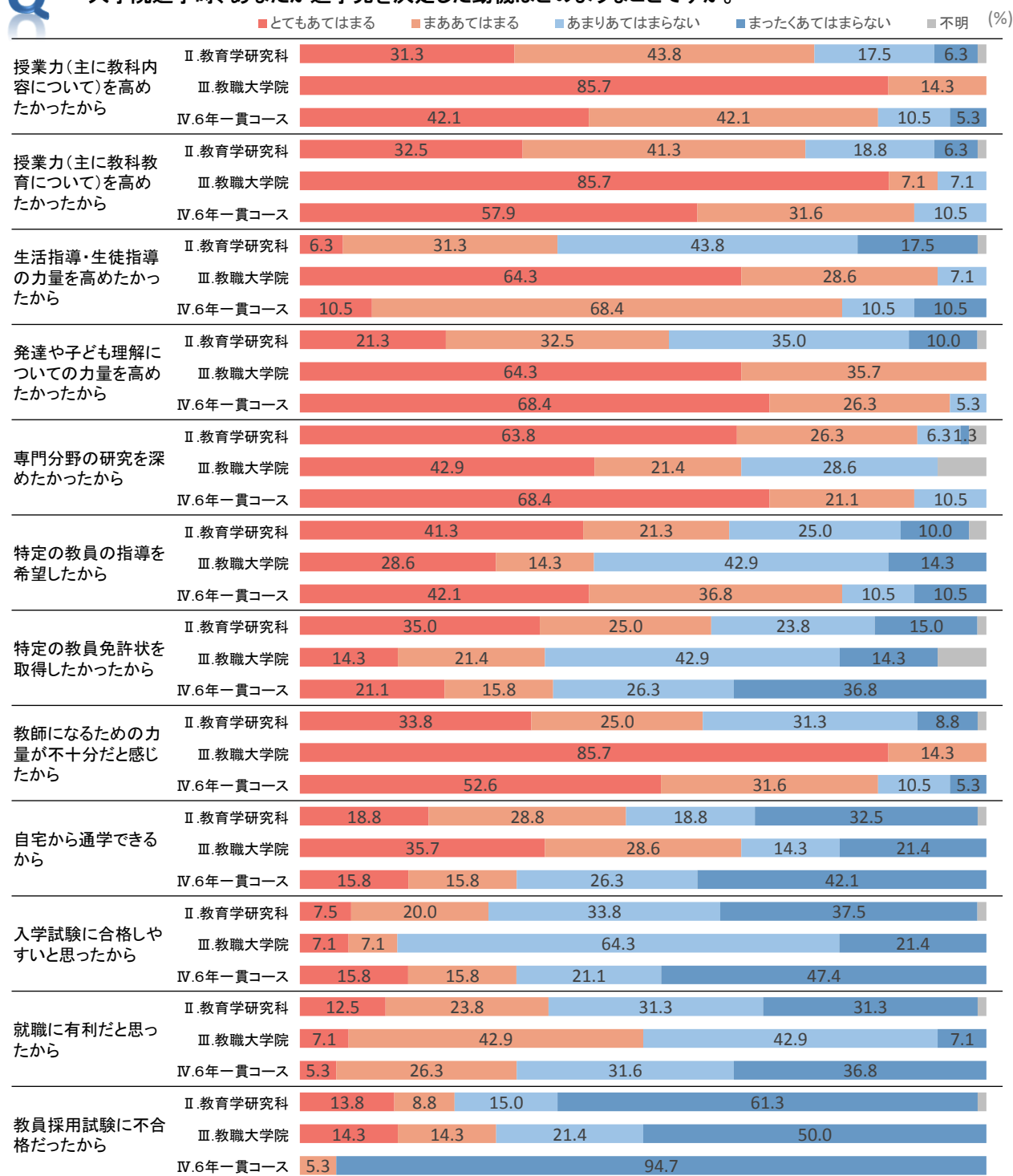
3 大学院進学先決定の動機

「専門分野の研究」を深めたいから、「授業力」や「子ども理解力」を高めたいから

大学院の進学先決定においては、類型ごとに異なる傾向をみせた。肯定的回答は、類型Ⅱで「専門分野の研究」を深めること、類型Ⅲで「授業力」や「子ども理解力」を高める項目で9割を超え、類型Ⅳで「専門分野の研究」「授業力」「子ども理解力」ともほぼ9割であった。また、類型Ⅲ・Ⅳは、「教師になるための力量不足を感じる」項目も8割を超えた。



大学院進学時、あなたが進学先を決定した動機はどのようなことですか。



※「Ⅲ.教職大学院」のみ対象

実習期間が長いから Ⅲ.教職大学院 57.1 42.9

4 大学院の学びをとおりて影響を受けたこと

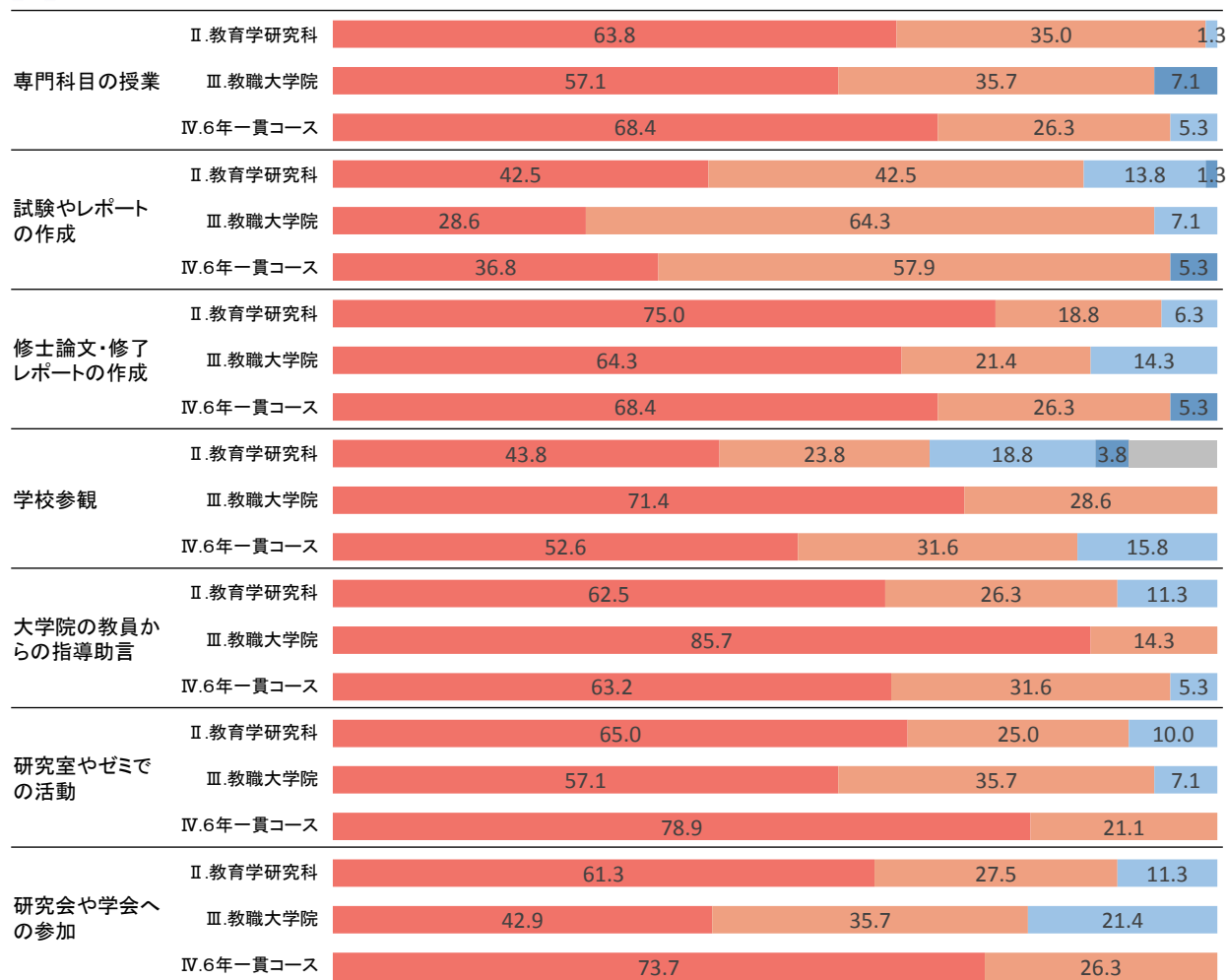
類型Ⅱは「専門科目の授業」「修論作成」、
 類型Ⅲは「大学院教員の指導」「学校参観」「教育実習等」、
 類型Ⅳは「研究室・ゼミでの活動」「研究会・学会への参加」において影響大

類型Ⅱでは「学校参観」以外の項目において、類型Ⅲでは「研究会への参加」以外の項目において、類型Ⅳではすべての項目において、8割以上が肯定的回答であった。とくに肯定的回答の割合の高い項目は、類型Ⅱでは「専門科目の授業」「修論作成」であり、9割を超える。類型Ⅲでは「大学院教員の指導」「学校参観」「教育実習等」、類型Ⅳでは「研究室・ゼミでの活動」「研究会・学会への参加」であり、それぞれ全員から肯定的回答を得た。



大学院時代に経験した以下のことがらは、現在のご自身を形成するうえで、あなたに影響を与えたと思いますか。

■ とてもそう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない ■ 不明 (%)



※「Ⅲ. 教職大学院」のみ対象

教育実習等	Ⅲ. 教職大学院	100.0
-------	----------	-------

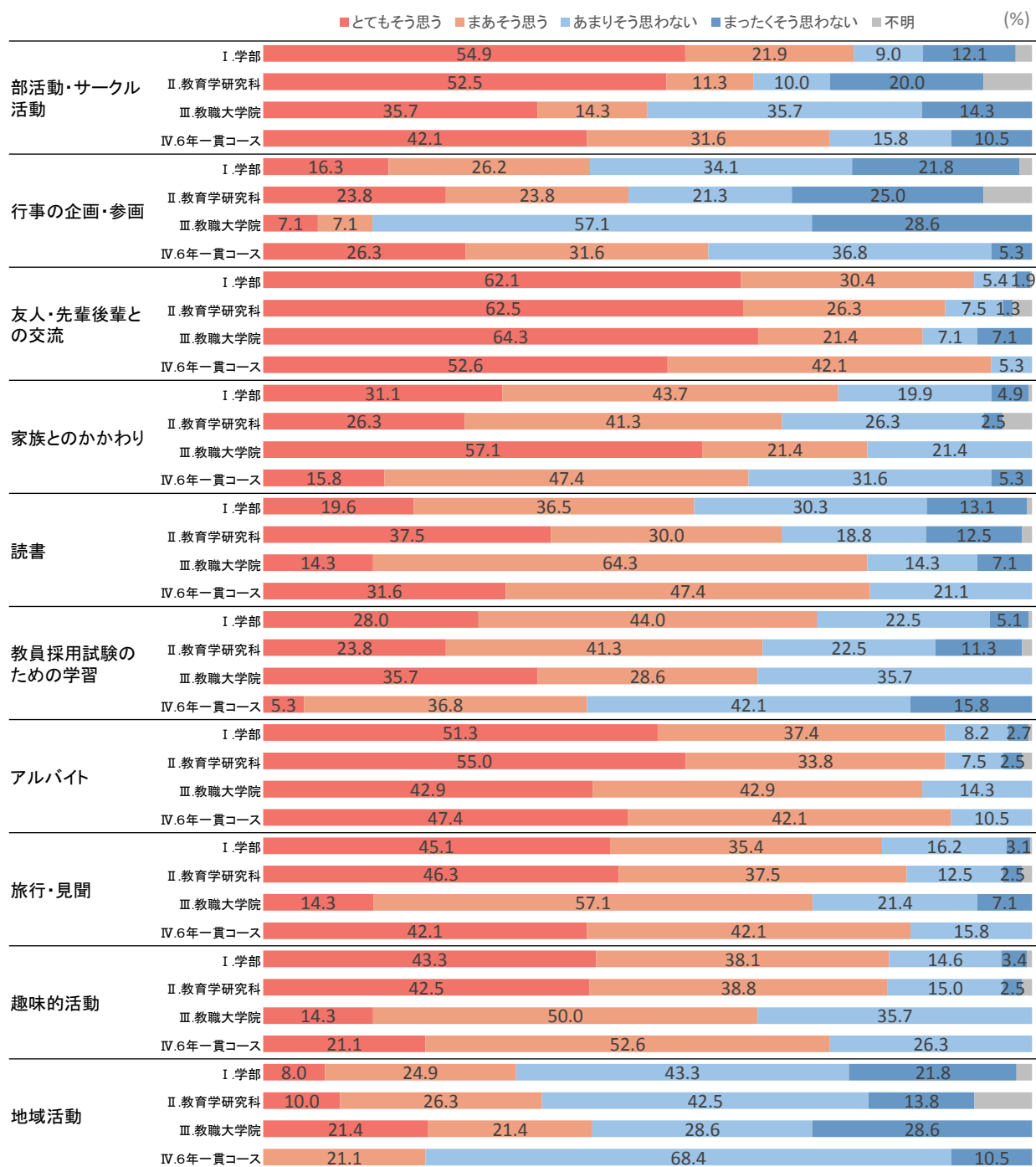
5 学生生活をとおりて影響を受けたこと

「友人との交流」や「アルバイトの経験」が自己形成に影響大

4類型いずれも「友人との交流」「アルバイト」の2項目の肯定的回答の割合が多い。次いで、類型Ⅰでは「趣味」「旅行」、類型Ⅱでは「旅行」「趣味」、類型Ⅲでは「読書」「家族とのかかわり」、類型Ⅳでは「旅行」「読書」と並ぶ。また、「部活動・サークル」の項目では、類型Ⅰ・Ⅱの過半数が「とてもそう思う」と回答している。



大学・大学院時代に経験した以下のことがらは、現在のご自身を形成するうえで、あなたに影響を与えたと思いますか。



6 在学時の学びと教育実践とのつながり

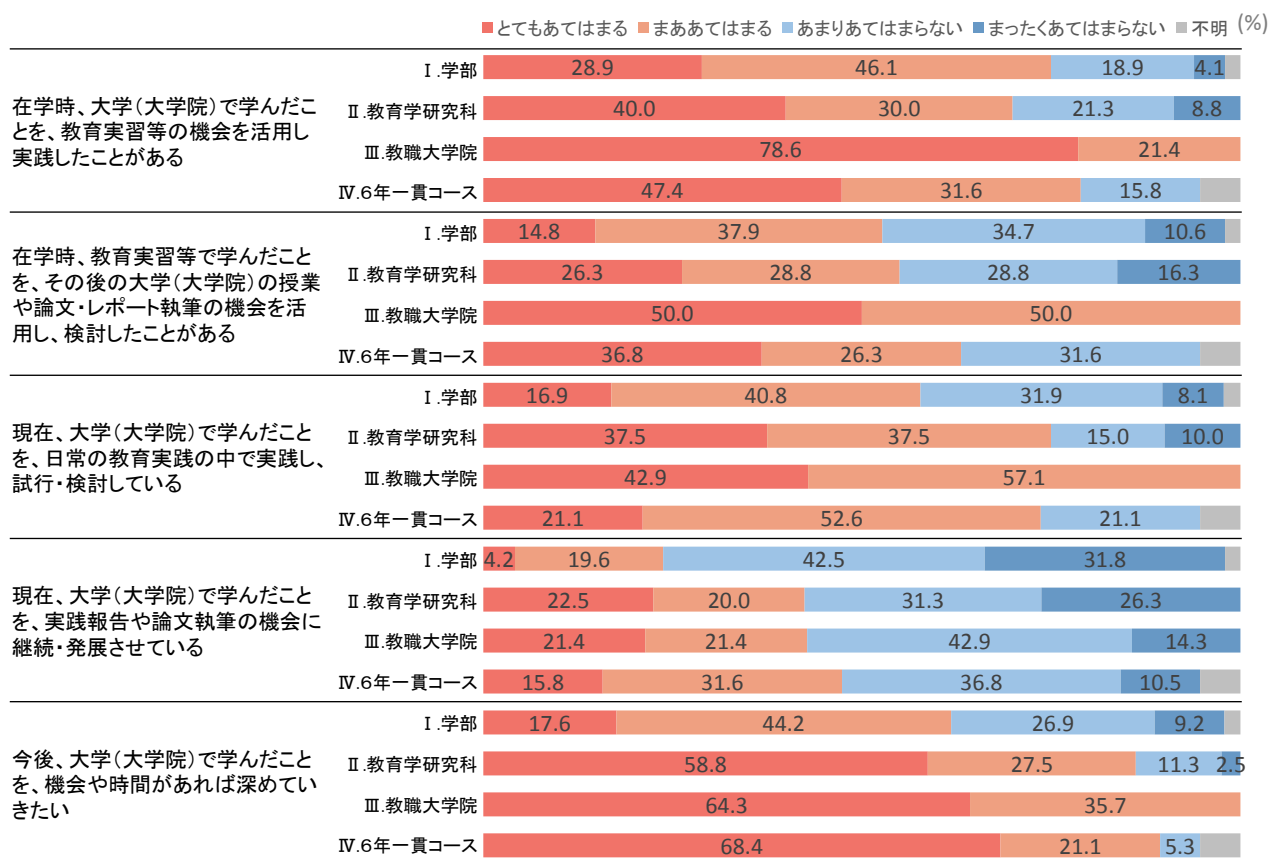
大学院修了教師の7割超、学部卒業教師の約6割が 在学時の学びを日常の教育実践の中で試行・検討

「現在、在学時に学んだことを教育実践の中で試行・検討しているかどうか」についてたずねたところ、類型Ⅲでは全回答者、類型Ⅱ・Ⅳでは7割超、類型Ⅰでは約6割が肯定的回答であった。また「在学時に学んだことを論文執筆等で継続させているか」については、類型Ⅳでは約半数、類型Ⅱ・Ⅲでは約4割、類型Ⅰでは約2割であった。

「今後、機会や時間があれば在学時に学んだことを深めていきたいか」という問いに肯定したのは、類型Ⅰでは6割超、類型Ⅱ・Ⅳでは約9割、類型Ⅲでは全回答者であった。



在学時の学びと教育実践とのつながりについておたずねします。



7 教師としての力量形成を促進するもの

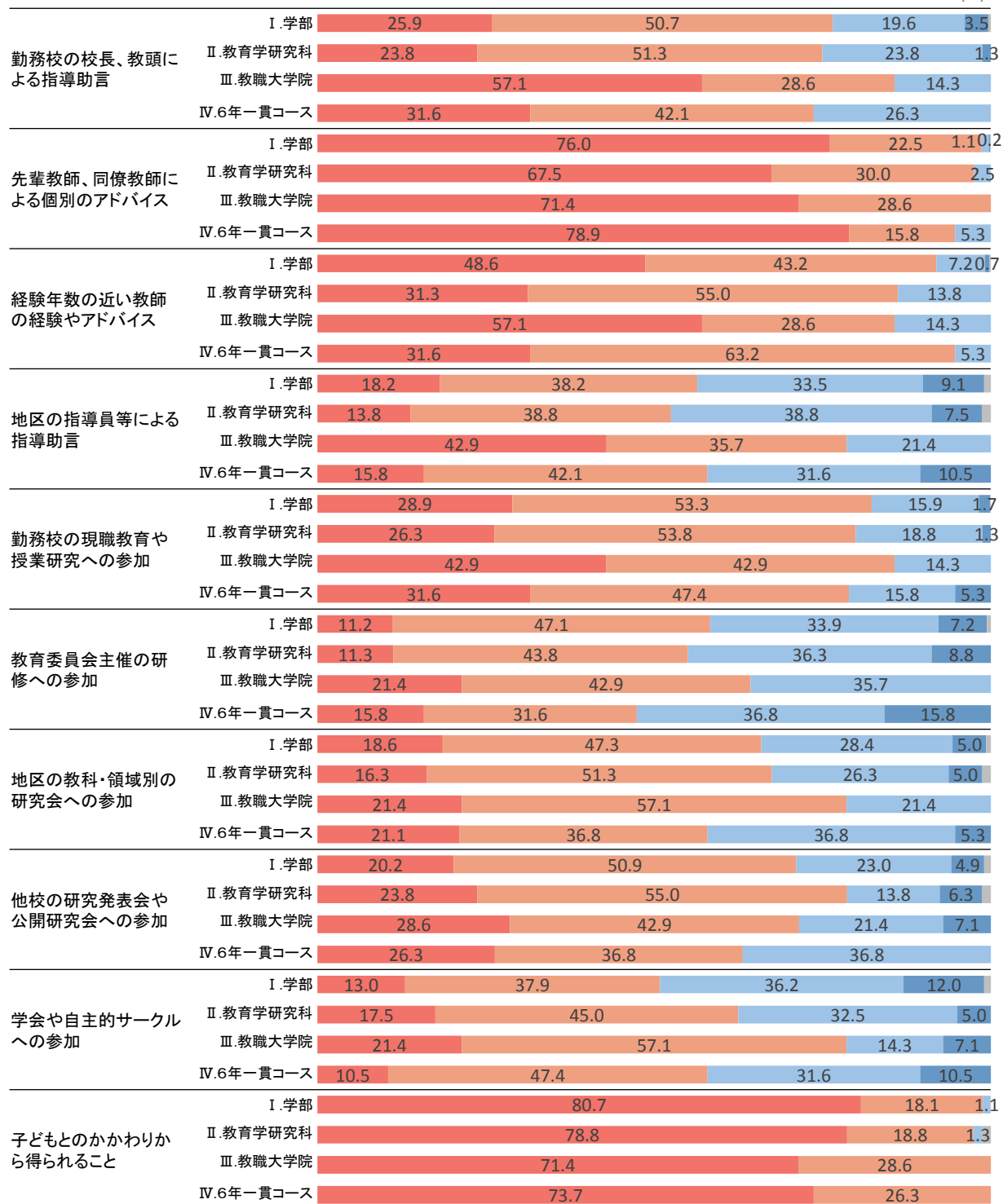
子どもとのかかわりから得られることで教育実践の質が高まる

肯定的回答の割合が最も多いのは、4類型いずれも「子どもとのかかわりから得られること」であった。「先輩・同僚教師の個別のアドバイス」「経験年数の近い教師のアドバイス」については8割超、「勤務校の現職教育・授業研究」についてもほぼ8割が肯定している。



現在、ご自身の教育実践の質を高める上で、どのようなことが有意義であると感じていますか。

■とてもあてはまる ■まああてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない ■不明 (%)



8 教師としての力量形成を阻害するもの

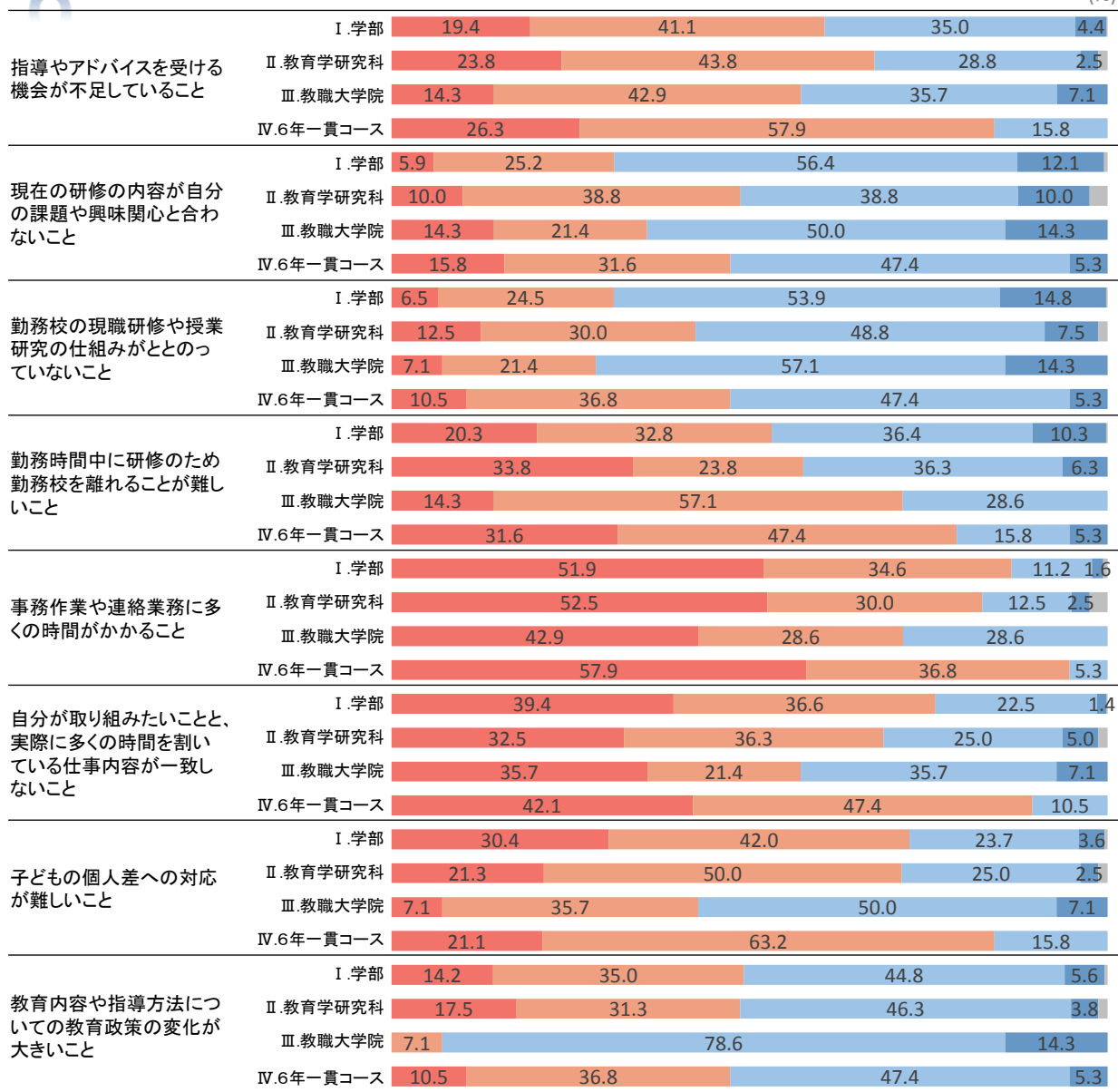
時間のかかる事務作業が力量形成を阻害する

4類型いずれも、「事務作業や連絡業務に時間がかかる」ことを肯定した教師の割合が最も多い。次いで多いのは、類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳでは「取り組みたいことと実際の仕事内容が一致しない」「子どもの個人差への対応が難しいこと」、類型Ⅲでは「研修のため勤務校を離れることが難しいこと」であった。

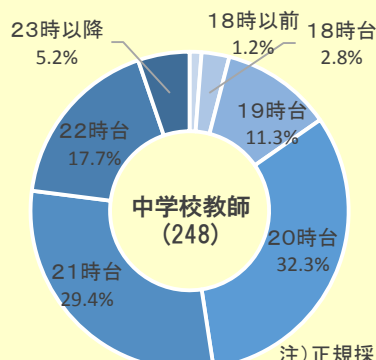
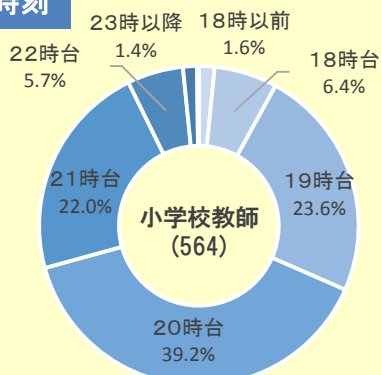


現在、ご自身の教育実践の質を高める上で、どのようなことが阻害要因であると感じていますか。

■とてもあてはまる ■まああてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない ■不明 (%)



参考：平均的な退勤時刻



注) 正規採用の教師のみ。

9 教職生活における課題・困難

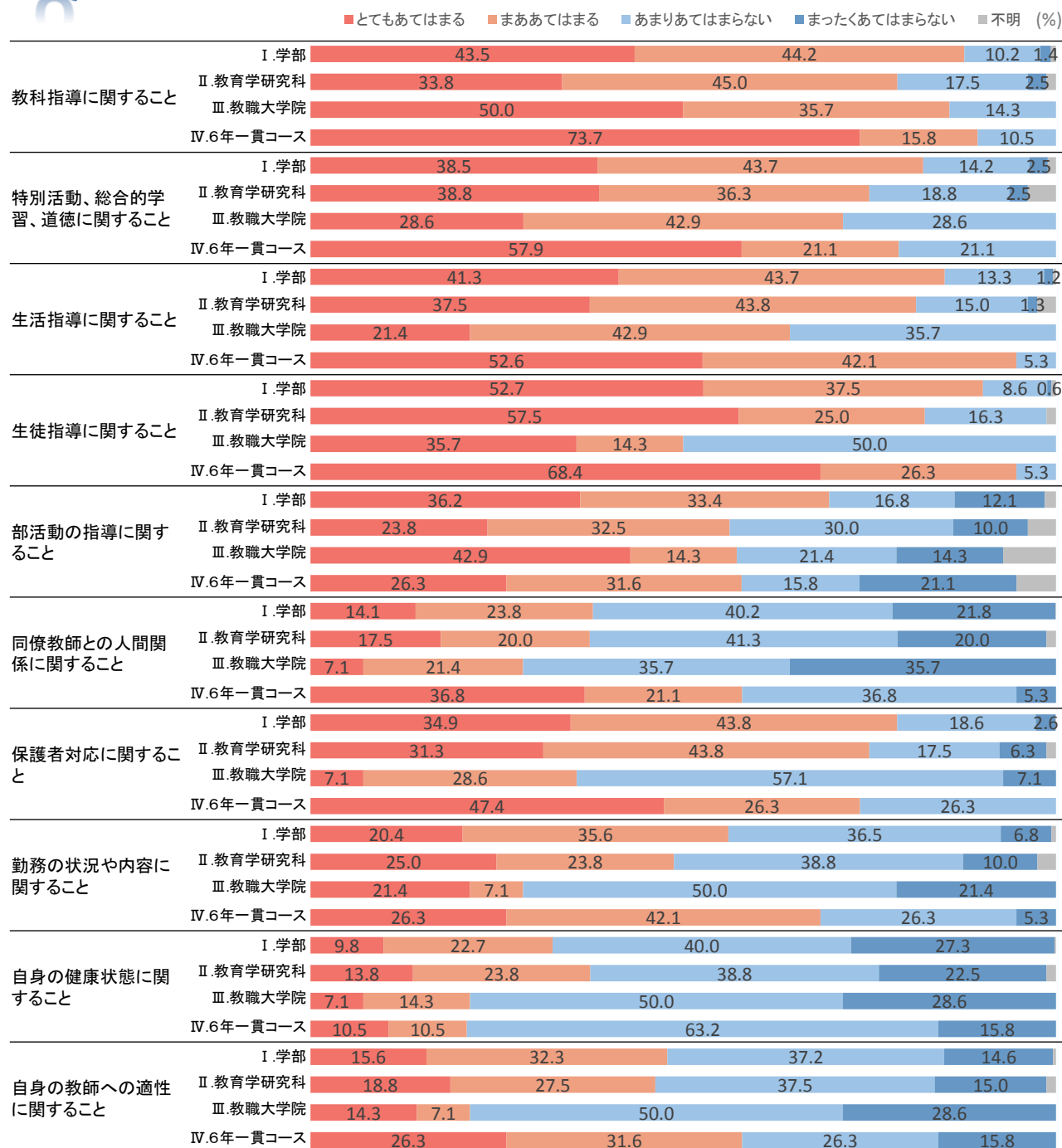
類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳでは「生徒指導」、類型Ⅲでは「教科指導」に困難感

肯定的回答の割合が最も多い項目は、類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳでは「生徒指導」、類型Ⅲでは「教科指導」であった。次いで、類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳでは「生活指導」「教科指導」、類型Ⅲでは「特別活動・総合・道徳」「生活指導」が多かった。

肯定的回答のうち「とてもあてはまる」の割合に着目すると、類型Ⅰ・Ⅱでは「生徒指導」、類型Ⅲでは「教科指導」、類型Ⅳでは「教科指導」「生徒指導」「生活指導」「特別活動・総合・道徳」で、いずれも5割を超えている。



あなたはこれまで、仕事を進めていく上でどのようなことについて課題や困難を感じましたか。



10 教職生活における課題・困難への対応策

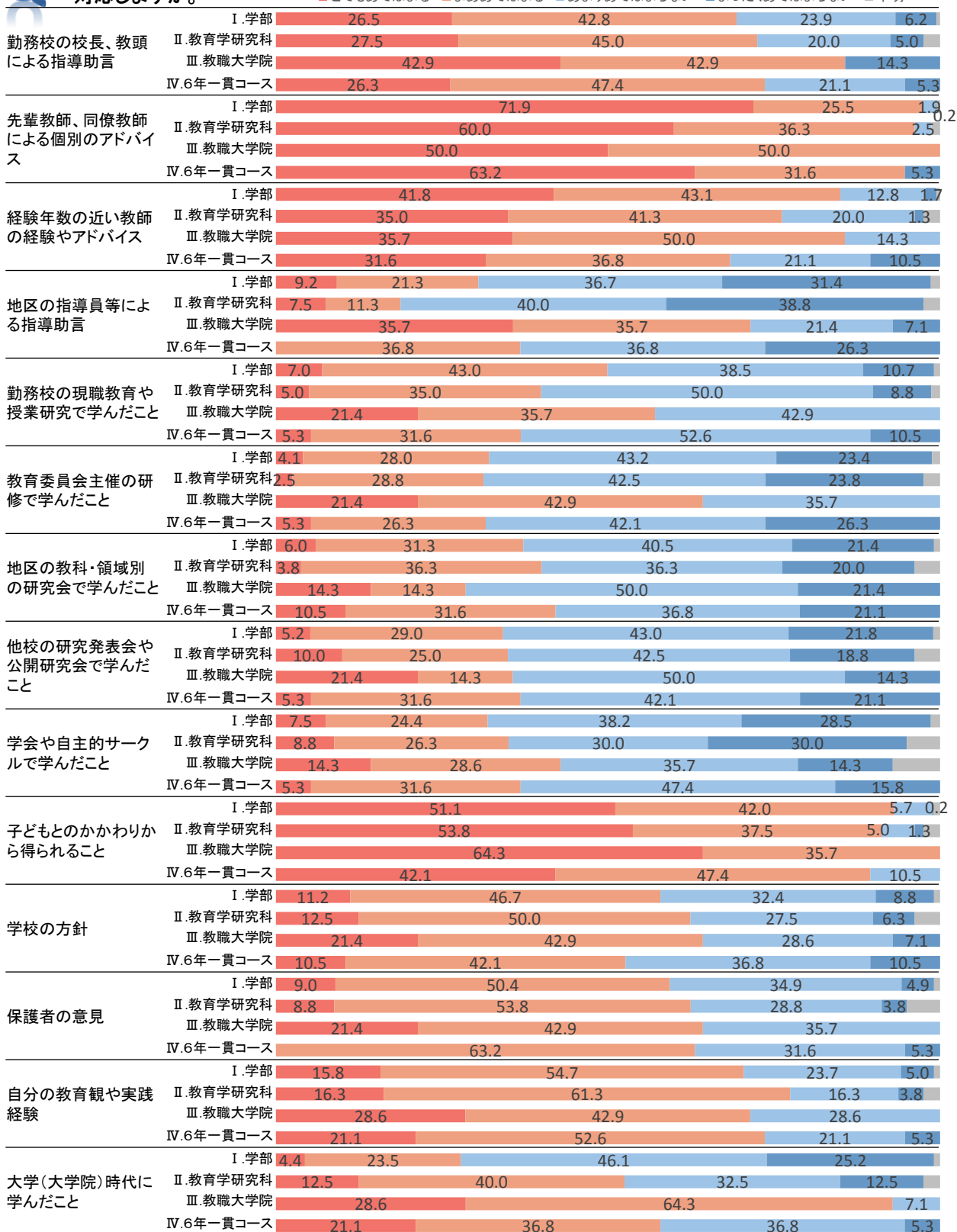
先輩・同僚教師や子どもとのかわりから得られることで困難に対応

4類型いずれも「先輩・同僚教師による個別のアドバイス」「子どもとのかわり」について肯定的回答が多い。「大学(院)時代に学んだことをもとに対応する」の項目に着目すると、類型Ⅰが約3割、類型Ⅱが5割超、類型Ⅲが9割超、類型Ⅳが約6割、肯定している。



あなたは、仕事を進めていく上での課題や困難を感じたときに、どのようなことをもとにして考え、対応しますか。

■とてもあてはまる ■まああてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない ■不明 (%)



11 現在の自分に身についていること

全体として肯定的回答の割合が多く、5割に満たなかったのは「学校組織の改善」の項目のみ。学部卒業教師（類型Ⅰ）と大学院修了教師（類型Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ）では、21項目中20項目で後者の肯定的回答の割合が多く、「教師の使命感」「問題行動対応」「教材研究」「自己の授業改善」等の8項目において有意差が認められた。



現在、あなたは以下のことがらについて、どの程度身についていると感じますか。

■身についている ■まあ身についている ■あまり身についていない ■身についていない ■不明 (%)

教師としての使命感や情熱をもつこと **	学部卒業	39.2	52.4	4.9	0.4
	大学院修了	53.1	41.6	4.4	0.9
教師としての規範意識、人権意識、倫理観をもつこと **	学部卒業	28.8	61.5	6.4	0.2
	大学院修了	38.9	57.5	2.7	2.7
社会人としてのマナーを身に付けていること **	学部卒業	20.7	66.1	9.6	0.4
	大学院修了	31.0	61.1	8.0	8.0
協調性をもち、同僚と意見交換や情報交換をすること	学部卒業	40.0	51.8	4.7	0.4
	大学院修了	38.9	52.2	7.1	1.8
自分の課題解決や力量向上に向けて取り組むこと	学部卒業	23.3	61.3	11.8	0.5
	大学院修了	34.5	54.0	9.7	1.8
教育活動や校務に関する企画・立案をすること	学部卒業	10.6	46.0	34.1	6.4
	大学院修了	8.0	54.0	28.3	8.8
学校組織の改善や活性化へ向けて取り組むこと	学部卒業	8.0	41.3	38.7	8.7
	大学院修了	6.2	43.4	38.9	11.5
保護者や地域住民と、適切に連携・協力すること	学部卒業	16.2	62.8	16.9	1.1
	大学院修了	18.6	64.6	14.2	1.8
子どもの思いや気持ち、反応や行動を理解し、支援すること	学部卒業	25.7	63.4	7.6	0.1
	大学院修了	31.0	65.5	3.5	3.5
子どもとの信頼関係を構築していること	学部卒業	34.0	56.5	6.1	0.2
	大学院修了	38.1	54.0	7.1	7.1
学級全体の状況や変化をとらえ、組織づくりや環境づくりをすること	学部卒業	16.8	59.9	18.1	1.7
	大学院修了	17.7	61.1	19.5	1.8
特別な支援を必要とする子どもの特性について理解し、支援すること	学部卒業	13.9	56.8	24.9	1.4
	大学院修了	16.8	61.9	21.2	21.2
生徒指導上の課題や問題行動について理解し、対応すること **	学部卒業	12.5	61.1	22.4	0.9
	大学院修了	17.7	67.3	15.0	15.0
学校の教育目標をふまえた教科、領域の指導計画を作成すること **	学部卒業	6.6	52.2	33.4	4.7
	大学院修了	12.4	58.4	24.8	4.4
教材の内容を分析・解釈し、教材研究をすること ***	学部卒業	14.4	65.3	16.7	0.5
	大学院修了	31.0	57.5	9.7	1.8
子どもの実態をふまえて授業の適切なねらいを設定すること ***	学部卒業	11.1	63.0	22.0	0.7
	大学院修了	19.5	67.3	13.3	13.3
発問や板書、予想される子どもの反応等を視野に入れた学習指導案を作成すること	学部卒業	10.3	59.4	24.5	2.6
	大学院修了	14.2	62.8	20.4	2.7
適切な資料やワークシート、学習プリント等を開発すること	学部卒業	15.8	59.3	19.1	2.6
	大学院修了	22.1	55.8	16.8	3.5
子どもの発言や考え方を生かしながら、学習活動を展開すること	学部卒業	12.3	59.5	23.4	1.5
	大学院修了	10.6	69.0	19.5	0.9
子どもの学習活動を、分析的・総括的に評価すること	学部卒業	6.6	56.0	30.3	3.9
	大学院修了	8.0	61.9	28.3	1.8
学習活動を振り返り、自己の授業改善の視点をもつこと *	学部卒業	13.8	63.1	18.1	1.7
	大学院修了	21.2	61.1	16.8	0.9

注) *p.<0.1、**p.<0.05、***p.<0.01(t検定)。

12 教員養成制度の改革について

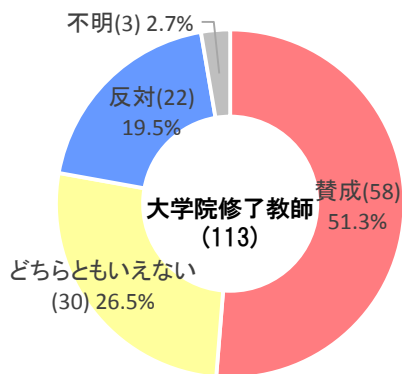
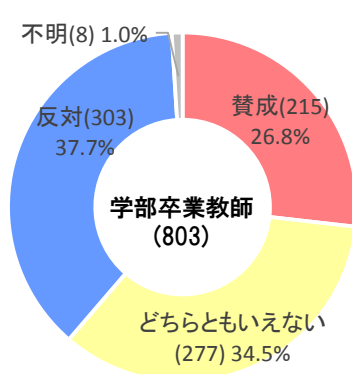
教員養成の高度化に賛成したのは 学部卒業教師(類型Ⅰ)の約4分の1 大学院修了教師(類型Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ)の過半数

教員養成の高度化についての賛否を、学部卒業教師(類型Ⅰ)にたずねたところ、「反対」、「どちらともいえない」、「賛成」の順に多かった。賛成の理由は、「学校現場で長期間の実習が可能になるから」、「授業の力量が身につくから」がともに3割を越え、反対の理由は、「学校現場で学ぶことの方が多いから」との回答が8割近かった。

大学院修了教師(類型Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ)では、「賛成」が半数を超え、「どちらともいえない」、「反対」となり、学部卒業教師の逆順であった。賛成の理由は「学校現場で長期間の実習が可能となるから」が、反対の理由は「学校現場で学ぶことの方が多いから」が、学部卒業教師同様最も多い。



教員養成の高度化(たとえば、修士レベル化やインターンシップなど)についての議論がありますが、このことについて、あなたはどのように思いますか。



賛成の理由

	学部卒業教師 (215)	大学院修了教師 (58)
学校現場で長期間の実習が可能になるから	31.6	36.2
授業の力量が身につくから	30.2	12.1
子ども理解の力量が身につくから	14.0	8.6
長期間をかけて学ぶことに意義があるから	7.9	15.5
生徒指導の力量が身につくから	3.3	5.2

注1) 単一選択。

注2) 「その他」「不明」は表記していない。

反対の理由

	学部卒業教師 (303)	大学院修了教師 (22)
学校現場で学ぶことの方が多いから	79.5	63.6
実習が長期間になると学校現場にとって負担だから	7.9	0.0
長期間をかけて学ぶ意味がないから	2.3	13.7
授業料負担が増えるから	1.7	9.1
大学での教員養成に課題が多いから	1.7	0.0

注1) 単一選択。

注2) 「その他」「不明」は表記していない。

13 自由記述より

自由記述は、①養成教育期をふりかえって、②教員養成高度化についての賛否、③教師観および教師の力量観、④教師および学校現場の状況、⑤アンケート回答作業の意味づけ、⑥アンケート調査のあり方、⑦その他の7つのカテゴリーに整理した。以下、①③④のカテゴリーより一部紹介する。

在学時の経験・学びと現在の実践活動とのつながり

- 日々仕事を行う上で大学で学んだことが役立っている！と実感することはあまりありません。しかし、何らかの課題にあたった時に、乗り越えようとする力は大学で養われたのかな、と思います。学生に、学業だけでなく、バイトに遊びに、多くのことに興味をもって経験してほしいと思いました。それが原動力になると思います。(Ⅰ.学部)
- 教育実習がなかったら、教師にはなっていなかったので感謝しています。(Ⅰ.学部)
- 大学で学ぶことと現場で学ぶことはちがいますが、理念を学ぶことや自分の考えを深めるためには大学で学ぶことは重要なと自分は考えます。(Ⅱ.教育学研究科)
- 学部、大学院で高い意欲をもった学生同士が会える場、学びあえる場があると良いと思います。自分は6年一貫コースに所属し、その点が充実していたので、とても学びある時間を過ごし、教師としての資質を高めることができました。(Ⅳ.6年一貫コース)

教員養成についての提言

- 大学で学んだことが「生かされた」と実感できたのは正直とても少ないです。もっと実践力をつける講義(講座)が開かれることを期待しています。教育実習がいちばん今の自分につながっています。(Ⅰ.学部)
- 学部生の間に、より現場で必要となる知識や技能を身に付けられるような内容の学習(授業)を展開していただきたい。(Ⅰ.学部)
- 大学でいかに教員になろうとしている学生の意識を高めるか、ということはとても難しいかもしれないが、もっと工夫していただけると大変ありがたい。本当に情けない話、自分は現場に来て大学でもっと勉強しておくべきと痛感した。(Ⅰ.学部)
- 振り返ると、大学時代に学んだ教育の知識や理論は、生徒の実情を知らない段階で学んでいたの、頭の中に入っていないことに気づきました。(Ⅱ.教育学研究科)

教材研究に時間を使えない学校現場の忙しさ

- 本当に時間が足りない。やらなければいけないことが多すぎる。本当はもっと教材研究に時間を使いたいのがそれが叶わないと感じている人はたくさんいると思う。なかなか減らすことができるものが少ないので難しいが、なんとかやっていかないと教育のレベルは上がっていかないだろう。(Ⅱ.教育学研究科)
- 学校で教員をするようになり、じっくり教材研究に時間がかけられないことが、教員の質にあらわれているように感じる。やはり、教員の最も優れているべきところは授業であると思うので、現場での時間のとり方にゆとりがあることが、質を高めることになると思う。(Ⅳ.6年一貫コース)

教師とは？教師に求められる力量とは？

- 教師には、子どもを想う気持ちが一番大切だと強く感じます。純粋に、その気持ちをもてる人たちが教師になってほしいです。(Ⅰ.学部)
- 実際に教員になってみて思ったのは、教員に必要なのは「まじめ」ではなく、「許すこと」だと思いました。(Ⅰ.学部)
- 本当に様々な子ども、そして、様々な親がいます。また様々な教師がいます。チームワークが良ければ良いほど良い教育ができることを実感しました。いろんな人との関わりを大学時代に身に付けておけると、即戦力になるのではないのでしょうか。(Ⅰ.学部)
- 多様な環境で育てられた個性豊かな子どもたちを受け入れることが一番大切だと感じました。それを愛教で学びました。(Ⅰ.学部)
- 教師という職業の価値観が人によって違うのが現実です。リーダーとなる人、家庭を大切にする人など、仕事以外の面で教師は影響されていることも忘れないでほしいです。(Ⅳ.6年一貫コース)

発行：2014年3月

制作：愛知教育大学教員養成キャリアプロジェクト

首藤 貴子(愛知教育大学 研究員)

幸前 有南(愛知教育大学大学院教育学研究科 大学院生)